

南アルプス市立白根巨摩中学校 学校関係者評価書（後期）

白根巨摩中学校 学校関係者評価委員会

令和6年1月22日作成

第2回 学校関係者評価委員会

実施日 令和6年1月19日（月） 午後5時～

会場 白根巨摩中学校 校長室

参加者 学校関係者評価委員 5名（五十音順）

穂山 貴 芦澤 秀幸 飯嶋 久
金丸 芳秀 久保田直美

学校職員 4名

笹本 忠彦（校長） 小林 紀浩（教頭）
足達 敏弥（教務主任） 塩谷 茂美（生徒指導主事）

1 学校から提案された内容

- (1) 生徒の生活について
- (2) 教職員アンケート結果について
- (3) 生徒アンケート結果について
- (4) 保護者アンケート結果について
- (5) 2学期の自己評価について

2 評価されたおもな内容

領域別・評価項目別の自己評価考察および意見交換

学校関係者評価

1 全体評価

後期の教職員によるアンケート結果は、前期とほぼ同様の平均4.5となった。目標の指標とした平均4.5を達成することができた。生徒アンケート、保護者アンケートの得点についてもほとんどの項目において、指標とする平均4.0を上回っている。これらの結果から、学校運営は良好に行われていると考えられる。職員が同じ方向を向き、組織として取り組んでいることが、学校力の向上につながっている。また、前期で確認された課題にも学校としてしっかりと取り組んだ結果がアンケート結果にも表れていて、ありがたく感じている。

今後も、「基礎学力・家庭学習の定着」、「授業でのICTの有効活用」、「不登校生徒への対応」等の課題を見据えながら、引き続き職員がチームとなって、個々の生徒や保護者に寄り添った支援を継続していくことが必要となる。そのためにも地域や関係機関との連携をさらに深めながら、きめ細かな教育実践に努めてほしい。

2 自己評価書に見る課題と対応について

○学校運営

- ・本校の先生方は、教職員が一つの方向を向いて、チームとして学校運営に取り組んでいると感じている。特に、行事等に参加する中で、そのような姿がよく見られた。
- ・教職員の自己評価については、さらなる向上を目指して厳しい評価をしている面もあると思うが、生徒や保護者のアンケートを見ても、学校の取組が認められていることが伺える。今後も、現状に満足せずに、課題を分析する中で、さらに学校力を向上できるようにチーム学校として取り組んでいってほしい。

○教科指導

- ・前期に課題として確認された「家庭学習の定着」や「授業でのパソコン活用」についての取組の成果がアンケートの数値からわかる。特に、ICTの有効活用については、教職員の研修の効果もあり、活用が広がっているのは頼もしい。
- ・基礎学力の定着については課題として捉え、指導内容や指導方法について、さらなる工夫をしていく必要がある。家庭学習の定着との関連も図りながら、対策を考えていってほしい。その際、教育課程の見直しや指導体制の在り方についても創意工夫を行う中で、生徒一人ひとりの学力保障を図ってほしい。

○生徒指導

- ・不登校生徒を含め、一人ひとりの生徒の悩みや心配事に丁寧に取り組んでくれていることが生徒・保護者アンケートから伺える。引き続き一人ひとりの様子を注意深く見守るとともに、個々の生徒がもつ課題に寄り添ったきめ細かい支援や対応をお願いしたい。
- ・職員間の情報共有を図るとともに、スクールカウンセラーやスクールサポーター等の関係機関や専門機関との連携を行いながら、不登校や問題行動の未然防止にも努めていく必要がある。

○特別活動

- ・前期に課題として確認された「部活動の指導」については、外部指導者や地域ボランティアの活用等により、少しずつ改善が図られていることがわかる。今後は、部活動時間の見直し等をも考えながら、教職員の多忙化改善やライフワークバランスへの意識向上につなげていってほしい。
- ・行事がコロナ前に戻りつつある中で、本校の伝統である合唱についても、学校の特色として、今後も継承・発展していくことを期待している。

○信頼される学校

- ・学校と生徒・保護者との関係が良好であることが伺える。引き続き、積極的な情報発信を行いながら、地域に開かれた学校運営をお願いしたい。

3 特記事項

- 評価委員より、次の3点について今後も学校経営の課題として取り組むよう提言があった。

- ①基礎学力の定着に向けた組織的な学力向上対策（ICTの有効活用含む）
- ②不登校等の生徒への継続したきめ細かい支援・対応
- ③教職員の負担軽減やライフワークバランスの実現につながる部活動のあり方

記載責任者

白根巨摩中学校学校関係者評価委員会 委員長 芦澤秀幸
副委員長 穂山 貴